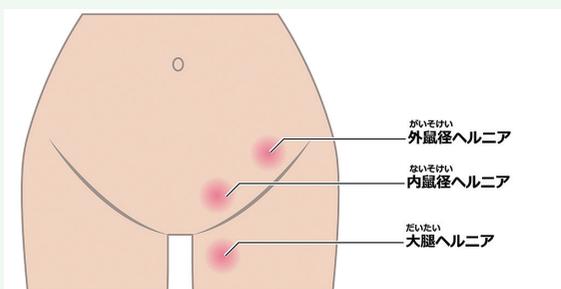


「ヘルニア」ってなあに？

「ヘルニア」と聞いて、どんな病気をイメージされるでしょうか。身近でよく耳にするのは、「椎間板ヘルニア」や「鼠径（そけい）ヘルニア」でしょうか。「椎間板ヘルニア」は背骨と背骨の間のクッションである椎間板が飛び出して神経を圧迫し、腰痛や足のしびれを引き起こす病気です。また、「鼠径ヘルニア」は太ももの付け根、鼠径部と呼ばれる部分に、主に腸が飛び出し、ゴルフボール〜ソフトボール大ほどにぶくっと膨れてくる、いわゆる「脱腸」です。

「ヘルニア」という言葉は、脱出や突出を意味する「Hernia」というラテン語からきており、「本来あるべきところから飛び出した状態」を指す言葉なので、実はいろんなところに「〇〇ヘルニア」が存在します。例えば赤ちゃんにみられる「でべそ」は「臍ヘルニア」といい、腸が臍に飛び出している状態です。「食道裂孔ヘルニア」は、胃の一部が横隔膜から胸の方に押しやられたもので、高齢者やぼっちゃりおなかの方に多く、胸焼けを自覚する場合があります。急な腹痛で来院される人の中には「内ヘルニア」といって、おなかの中にできた隙間に小腸がはまり込んでしまったことが原因だったりします。おなかを切った手術の傷跡に腸が飛び出して膨れ、場合によっては腸閉塞となる「腹壁癒痕ヘルニア」や、脳の出血や外傷などで脳の一部がはみ出し



体中に「ヘルニア」と名が付く病気が多くあります。

てしまう「脳ヘルニア」。その他にも「閉鎖孔ヘルニア」「白線ヘルニア」「半月状線ヘルニア」「横隔膜ヘルニア」などなど、体中に「ヘルニア」と名がつく病気が多くあります。

さて、私の担当する外科で扱うことが多い「鼠径ヘルニア」は、幼少期にみられるものもあれば、加齢によって腹膜が緩んで発症するものもあります。男性に多い病気ですが、まれに女性にもみられ、卵巣が飛び出しているなんてこともあります。出てくる場所の違いで「大腿ヘルニア」ということもあります。生活に困るような症状もなく様子を見ているという方もみえますが、小さな穴に腸がはまり込んで「嵌頓（かんとん）」という状態になると腸が腐ってしまうことがありますので注意が必要です。腸が飛び出る状態が自然に治癒したり、お薬で治ることはありませんので、治療の基本は手術です。おなかの壁にあいた穴を人工補強材のメッシュで塞ぐ手術が多く行われています。体の負担が少ない腹腔鏡での手術も行われていますので担当の先生とよくご相談ください。

高齢化によって「鼠径ヘルニア」の患者さんは増えてきています。人生100年時代、痛みや違和感を感じているようであれば、おうちの修理と同じように、おなかの壁の修理（手術）をすることを考えてみてはいかがでしょうか。数日の入院で快適な暮らしが待っていますよ。



現在では腹腔鏡手術も多く行われ、数日の入院で治療ができます。

[ご紹介している健康情報は2022年1月時点のものです。]

執筆者 トヨタ記念病院 春木 伸裕

監修 公益社団法人 愛知県医師会